

塩谷高校は元気です！！

このたびは、栃木県立塩谷高等学校のホームページにアクセスしていただき、ありがとうございます。

今年度（平成23年度）から矢板高校との再編統合により募集停止となり、2年生・3年生186名の小規模校になってしまった塩谷高校ですが、生徒たちは元気に毎日過ごしています。

始めに塩谷高校の歴史について、少し振り返ってみたいと思います。

塩谷高校の歴史は、昭和25年4月1日、矢板高等学校大宮分校（定時制）（農業課程及び農村家庭課程 昼間4年制）として、県から開校が認可されたことに始まります。

昭和25年4月21日、まだ独立した校舎がなかった大宮分校は大宮村立大宮小学校の2教室を借用して授業を開始しました。この日4月21日を意義ある日として、創立記念日と決めたのが、塩谷高校として独立した昭和47年6月19日です。本校の校訓「叡智」も同じ日に決められ、現在まで続いています。

地元の多くの方々の努力と厚意により、昭和28年独立校舎が完成しました。その後、同窓生、PTA、地元塩谷町（昭和32年に玉生村・船生村・大宮村が合併して塩谷村となり、昭和40年に塩谷町となった）の町民の願いのもとに、昭和43年4月1日町から県に移管して、全日制課程（普通科1学級、家政科1学級）が発足し、定時制はその役目を終えて募集停止となりました。さらに昭和45年には立派な体育館が建築され、その年創立二十周年記念式典も挙行されて、関係者の悲願であった独立校を目指して大きく前進しました。

そしていよいよ様々な厳しい条件をクリアし、昭和47年4月1日「栃木県立塩谷高等学校」（普通科2学級、家政科1学級）として独立したのです。すべては町・PTA・同窓会、そして分校の先生方の努力の賜でした。

それから時は流れて、今年度は分校開校から62年目、塩谷高校として独立してから40年目となります。その間、永年に亘る福祉活動が基盤となり、平成8年4月1日に社会福祉科が設置され、「福祉の塩谷」として、広く認知されるようになってきました。しかし、高校教育を取り巻く社会環境の変化に対応するため策定された県立高校再編計画により、その社会福祉科が移設される形で矢板高校と統合し、今年度4月1日に新生矢板高校が開校しました。今後塩谷高校の遺伝子は確実に新生矢板高校に引き継がれていくことと思います。

さて、昨年度の塩谷高校の生徒たちの活動の状況ですが、授業・実習やインターンシップ、各種検定試験、進学・就職への準備、学校行事、生徒会、家庭クラブ、IAC（インターアクトクラブ）の活動や部活動などに精一杯取り組み、成果を上げました。特に昨年11月には、生徒全員が加入するIACの永年の活動が認められ、財団法人とちぎ青少年子ども財団より「優良青少年団体」として表彰されました。また、懸念されていた就職の内定率は92.2パーセントと、厳しい状況の中でたいへん健闘したと思います。さらに3月29日に発表された介護福祉士国家試験の本校生の合格率は83パーセントと過去最高となりました。生徒たちの努力が形になって現れ、たいへん喜ばしく思っております。平成22年度を締めくくるすばらしい結果でした。

いよいよ本校は残すところあと2年で閉校となります。生徒数も減り、教職員も学級減に伴って定数減となっている厳しい環境ですが、生徒たちも教職員も一層絆を深め、塩谷高校の「有終の美」を飾ろうと心をつにしております。同窓会・PTAの皆様をはじめとして、関係者、地域の皆様方には、閉校まで塩谷高校の生徒たちの活動を温かく見守っていただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成23年4月

栃木県立塩谷高等学校長 滝田 順子